

新会員・再転入会員の声



学びを継続しなくては

南相馬市立原町第二小学校
伏見 伸一郎

3年の時を経て、また戻ってこれることができました。こんな浦島太郎を温かく迎えてくださった校長先生方に本当に感謝しております。

さて、この3年間で学校現場は大きく変化しました。学習指導要領が変わり、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業改善が進んでいます。目指すべき資質・能力は何か？この教科の見方・考え方は？…新たに勉強しなければならないことのオンパレード。他にも、働き方改革、コロナ対策、GIGAスクール対応、配慮を要する児童への対応等に現場は四苦八苦。浦島太郎は、押し寄せる大波に翻弄される小舟に揺られ、右往左往の毎日です。

まずは本校の良さと課題を明確にして、船の方向性を定め、子ども達や先生方を導いていけるよう学びを継続していきたいと考えています。皆様、今後も浦島太郎に温かいご指導をお願いいたします。



地域とともに歩む 学校を目指して

南相馬市立八沢小学校
佐々木 徹

今年度も、新型コロナ禍の中での教育活動となりましたが、八沢小学校では感染対策を工夫しながら様々な行事・活動をほぼ予定どおり推進してきました。ご協力いただきました地域や保護者の皆様にご感謝申し上げます。また、本校ではICTを活用した教育に力を入れ、授業での協働学習を始め、家庭へ持ち帰っての学習などにも活用をしています。

さて、コロナ禍が落ち着いた学校での対策も取れるようになった今、単にコロナ禍の前に戻すのではなく、急激な変化の中にある社会情勢と地域の課題を踏まえた新たな学校づくりを目指すことが大切だと感じています。本校の場合は、地域と共に歩む学校及び子ども達の姿を、情報を活用して積極的に発信し、後世に残すことが課せられたミッションだと思います。この思いを地域や保護者の皆様と共有して学校づくりを進めていきたいと思っております。



探究学習の充実をめざして

南相馬市立原町第三小学校
和田 安吉

9勝、46本塁打などの記録を残し、世界中のファンを熱狂させた大谷翔平。コロナ禍で閉塞感が漂う中、私たちの不安を払拭し、前向きに取り組む勇気を与え続けた。

大谷選手に励まされ、私も本校の課題の一つである総合的な学習の時間の活性化に教職員とともに取り組んでいこうと思う。教科等横断的な視点で国語や算数などの教科と関連づけることを意識しながら、地域や社会に目を向け、誰かの笑顔につながる活動を展開していきたい。そして、どんな環境にも柔軟に適応し、自分らしさを発揮しながら社会に貢献する人間を育てていきたい。

リーグ優勝をめざして多国籍のチームメイトと協力しなら、一つ一つ課題を解決していく大谷選手の姿に、子供たちの未来像を重ねながら、校長としての使命を果たしていこうと思う。



未来を担う 子どもたちのために

飯館村立いいいたて希望の里学園
亀田 邦弘

村鳥ウグイスの囀りが響き渡る「までの村」に、装いも新たにそびえる「いいいたて希望の里学園」。4年ぶりの飯館村での学校生活は、頼もしく成長した子どもたちや協力的な保護者、地域の皆様と再び充実した時間を共有できる喜びと、ふるさと飯館村の現地で教育活動を実践できる期待で満ちあふれ、感慨深いスタートとなりました。本校は今年度、義務教育学校2年目を迎え、校長を中心とし、副校長、教頭、主幹の4人体制のもと、教職員が一丸となり、9年間を見通した一貫教育、教科担任制、ふるさと教育「いいいたて学」の実践など、義務教育学校の特徴を生かした教育活動を展開しております。今後も副校長として校長を助け、未来を担う子ども一人一人の夢と希望の実現に向け、全力で教育活動に邁進して参ります。校長会の各先輩方には、今後とも、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

コロナ禍ではありますが、様々な制限が緩和されると気持ちに余裕ができストレスが軽減されます。しかし、制限緩和に関係なく、大切なことは安全・安心な生活を守るために自らが考えて行動することです。これからの時代を生き抜く子どもたちに、考える力をつけることが私たちの使命だと改めて感じています。第135号発刊にあたり、玉稿をお寄せいただいた新地町教育委員会教育長様をはじめ、諸先生方に厚く御礼申し上げます。



令和 3 年 12 月 7 日
相馬地方小学校長会
第 135 号
発行責任者 伏見 康 弘
編集責任者 佐々木 芳三郎
発行所 ライト印刷



校長の流儀

新地町教育委員会教育長
佐々木 孝 司

未来社会に想定外の急激な変化があろうとも、時代の潮流を冷静に見極め、心豊かにたくましく、しなやかに社会を生き抜く日本人の育成を目指す教育理念は不易なものである。

教育を実践する学校という一つの点のトップリーダーが校長である。点の何校かが繋がり線（地区）になり、多くの学校が活性化して面（県）に成長する。源泉としての校長の力量が重視される。

人間は一人では生きていけない社会的生物である。多くの人間は書物や映像よりも、自分が邂逅した人間から多くの影響を受けて成長する。子どもたちの純粋に円かな瞳は、輝きながら教科書よりも親身に指導する教師の姿を見ている。同様に、保護者や地域住民は五感を研ぎ澄ました鋭い洞察力で、校長や教師の言葉、口調、雰囲気等に熱い期待を寄せて見ている。教師の人間性や指導力等の巧拙で、子どもたちの成長に差異が生じることを知っているからである。誰もがトップリーダーに自信のない言葉、寂しげな表情や姿を望んではない。

標題の流儀とは「法にかなった正しい振る舞いが広まり伝わること」である。しかし、校長も一人では生きられない人間である。人間である限り「和」が大切である。「チーム学校」としての心の通いあう人間味ある言葉、説明責任のとれる確かな言動や行動、教える喜びを誇らしく語り合える学舎の風土づくりをキーポイントにあげたい。その上で教師力を高めて学校力に発展させ、教師にも明るく意欲ある「風格」が感じとれる、地域に根ざした学校経営を期待する。しなやかに未来社会を生き抜かねばならないのは子どもたちだけではないのだから。



行事が育てる児童の心

相馬地方小学校長会副会長
草野 収

私は学生時代、小（鼓笛隊）・中・高・大と吹奏楽部に所属し、トロンボーンを担当していた。トロンボーンは、メロディーを奏でることもあるが、中低音でハーモニーを奏で、メロディーを支える場面が多くある楽器だ。合奏においてハーモニーを奏でる場面では、他の楽器とのバランスをとったり、同じトロンボーンパートでも音程を調整し合ったりと、互いに聴き合いながら演奏することが求められる。このような経験や日々の練習は、友達を認め、協力し合う心の育成に役立っていると思う。

令和3年度も、新型コロナウイルス感染防止に努めながら教育活動を推進することが求められ、校長先生方は学校経営にご苦労されていることと思う。

南相馬市では、市陸上競技大会や市音楽祭（区ごとに開催）など、残念ながら昨年度中止した行事を、無観客ではあるが、今年度は実施することができた。また、各学校では、運動会や学習発表会などの学校行事を、実施内容や実施日の変更、参観者の制限などの工夫をしながら実施している。頑張って練習する体験や練習の成果を発表することは、児童にとってとてもよい経験であり、「目標に向かって頑張ること」や「みんなで協力して創り上げること」などを学んでほしいと思う。

学校行事の目標では、「協力すること」「体験的な活動」「集団への所属感や連帯感」「公共の精神」「特別活動における資質・能力の育成」が挙げられている。コロナ禍の今、改めて特別活動において身につけさせたい資質や能力は何かを明確にして実施にあたり、活動を通して、児童の心の育成を図りたいものである。

私の学校経営

新地小の子どもと教職員のよさを!

新地町立新地小学校 島 和 宏

- ①「あいさぶしんち」
- ②「あいさつしんち」
- ③「あいして (ICT) るしんち」

校長の方針は明確な方がよい、しかも簡潔であるべきという考えから、4月に赴任して先生方と子どもたちにお話しした内容でした。

①町にしてほしいことを求めるだけでなく、貢献できることを探し話し合い実行しよう。そして、感謝できるたくましい人になろう。②あいさつがあふれる新地町にすべく新地小から行動しよう。③ICTの効果的な使い方を身につけよう。

加えて、「相双の学力向上にチャレンジ!」これだけですと言うには余りにも大きな内容ですが、方針を明確にして、教職員の自主的な行動で遂行していただき、その方針自体を検証してもらおう。これは、吟味した課題を示し、その後は子どもたちの考えと



話し合いで「深い学び」に到達できるように個々の力を育て支援していくという「問題解決的な学習」のあり方、つまり授業から学んだ手法でした。

まだまだ成長過程ではありますが、真剣に授業に取り組む子どもたちのまなざし。教頭先生を信頼し和気藹々の中にも子どもの主体性を促そうと努力する教職員。町教委の温かい支援を受けながら、校長として、そのよさを引き出し自覚させ共有することで、子どもの「たくましさ」を育てたいと考えます。

学校紹介

けやきの木に見守られ

南相馬市立原町第一小学校 伏見 康 弘

本校は、明治6年に南新田小学校として創設され、今年148年を迎えました。校庭の東側には、開校当時、保護者や児童の手で植樹された4本の大きなけやきの木があり、それぞれの木には、「勇気」「元気」「根気」「本気」という名前がつけられ、教育目標にも反映されています。

コロナ禍ではありましたが、今年度は、相馬地方小教研国語部会の授業公開を行うことができました。3年間の研究指定を受け、「言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める指導はどうか。」を研究主題として、言語活動の充実を図りながら、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいます。

また、「まごころ学 (至誠学)」を推進し、豊かな心の育成にも努めています。郷土を愛する気持ちを

育てるため、本物に触れ、地域のよさを感じ取ることができるよう、地域の専門家を招いて雅楽、神楽、邦楽、民謡教室などを実施しています。

部活動も盛んで、マーチングバンド、九曜太鼓、陸上部の子どもたちは、放課後、目標を持ちながら心や体を鍛えるために日々頑張っています。

これからも、けやきの木に見守られながら、知情意体、調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指して、学校運営を進めていきたいと思ひます。



随 想

先生、こいつさどいもだっばい

相馬市立大野小学校 伊 東 敏 勝

新採用で5・6年生を担当し、卒業生を出して3年目、3年生担任として、やる気と自信にあふれ、やるからには賞をとりたいたいという意欲に満ちていた頃でした。西白河郡の農協祭りの絵画で賞をとるには、何を描かせればよいか考えた末、学校近くの畑にあるフキとコロボックルをイメージした絵を描かせようと考えました。我ながらいい戦略と思い、まずは畑の所有者に電話して、畑でフキの絵を描かせてほしいと依頼しました。所有者も快く承諾してくださいましたが、「おらげの畑にフキなんてあったっけ」と言われたのですが、「畑を見てきたらあったのでよろしくお願いします」と迷うことなく段取りをつけ、いよいよ絵を描く日となりました。

「これから近くの畑に行つて、大きなフキとみんなが背比べしている絵を描きに行きます。フキを大きく描いてくださいね」と学校近くの畑に行きました。目の前に広がるフキ (私の思い込み) をさして、「みんなフキを描きましょう」と言ったところ、子どもたち (小学3年生) から一斉に「先生、こいつさどいもだっばい」と言われたのです。これまで畑での里芋を知らなかったのです。ものすごい衝撃が走りました。子どもの成長や頑張りから教師としての必要な資質を学ぶということは多々あることですが、はずかしながら私の場合は「知識」を学んだのです。絵は『里芋でかくれんぼ』と題して賞をとることができました。でもそれ以来毎年、里芋の大きな葉っぱを見るたび、あの時を思い出します。

あれから30余年、現任校では地元野菜の『相馬土垂』という里芋を1年生と一緒に植えて、収穫しています。「里芋の葉っぱ大きいね」と言つて。



狼に育てられた子

相馬市立桜丘小学校 小 関 洋

小学校に入学する保護者向けの子育て講話で「狼に育てられた子」の話を紹介してきました。

～ 1920年、インドでキリスト教伝道中のシング牧師が、狼の穴から2人の女の子を見つけ、孤児院で育てました。推定1歳半の女の子をアマラ、推定8歳の女の子をカマラと名付けました。二人の特徴は、4つ足で歩く、手を使わず口で食べる、笑わない、重なり合つて眠る、好物は生肉や乳、毎晩叫び声…。狼の行動そのものです。アマラは1年後、カマラは9年後に病気で亡くなりました。言葉はなかなか覚えられず、2足歩行ができるようになったのは、カマラが4年以上過ぎてからです。つまり、人間は、小さい頃から、人間によって、人間らしい教育を受けて、人間になっていくのです。～

とてもインパクトのある事例です。ところが、先日ネットで、この話を疑問視する声を見つけてしまいました。この証言はシング牧師一人によるもので、調査を開始した時には既に亡くなっていた。施設関係者誰一人として二人の少女の狼のような行動を見ていない。狼には乳をあげるという行動はなく、人間は乳を近づけられて吸うため、授乳は成立しない。人間が生肉を食べれば中毒が起こる…。孤児院への寄付金目的ではないか。

ショックでした。大学の講義で出会って以来ずっと信じて多くの人に話をしてきたからです。もっと懐疑的に読むべきだったと反省しました。ただ、疑問視説の最後には、嘘である決定的な証拠はないとも締めくくつてありました。この事例を手放すのもったいないので、今後は、疑問視説も紹介しながら活用したいと思ひます。

